

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 9月号

2019年9月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail msw@cyutoku.or.jp

編集：與儀 篤（中部徳洲会病院）

MSW ニュースは毎月 1 日
県医療ソーシャルワーカー協会
ホームページに更新掲載されています

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

★今月の contents★		
研修報告 『2019 年度沖縄県 MSW 協会初任者研修 第 3 回目に参加して』 『2019 年度沖縄県 MSW 協会初任者研修 第 4 回目に参加して』	沖縄赤十字病院 兼濱 愛里 南部徳洲会病院 島袋 あや子	P2~3
在宅介護連携報告 『入退院調整にかかる基本指針策定に向けた圏域別調整会議 (北部圏域)』 『入退院調整にかかる基本指針策定に向けた圏域別調整会議 (南部圏域)』	勝山病院 山城 つきえ 那覇市在宅医療・介護連携支援センター ちゅいしーじー那覇 高江洲 あやこ	P3~4
自主勉強報告会	ハートライフ病院 佐平 彩乃	P4~5
トピックス (沖縄タイムス掲載済み) 『人生の最終段階 本人や家族の決断を支援』 『困難に立ち向かう力引き出す』	県医療ソーシャルワーカー協会 當銘 由香 安慶名 真樹	P5~6
新入会員紹介	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 真喜屋 陽香・金城 恵梨子	P7
部会からのお知らせ	千家 香村 真範	P7~8
MSW協会理事会 8月議事録	沖縄協同病院 新垣 哲治	P8~10

研修報告

「2019年度沖縄県医療ソーシャルワーカー協会初任者研修 第3回目」に参加して
令和元年7月21日
沖縄赤十字病院 地域連携室 兼濱 愛里

7月21日(日)に沖縄協同病院で開催された初任者研修 第3回目に参加しました。午前中の講義では、医療機関機能別専門知識として病院ごとの特性について学びました。価値と倫理はソーシャルワークの根幹ですが、興味深かったのは病院ごとにMSWとして求められているスキルや支援方法が少しずつ違うことです。

「急性期」は、短い入院期間の中、猛スピードかつ複雑な情報から必要な支援を見極め、効率と効果を意識した支援。「回復期」は、障害に対しての患者の気持ちの変化の過程を考えながら今後の具体的な生活への支援。「緩和ケア」・「精神科」などの支援方法も学ぶ事が出来ました。

病院を含め、慣れた場所を離れる時、患者や家族は不安です。MSWがそれぞれの病院の特性を知り、患者や家族の置かれた状況の段階に応じた納得のいく説明ができることによって新たな環境に向かう気持ちを支えられるのではないかと思います。

午後の講義は、前半で実践に必要な制度である介護保険についての理解を深めました。介護保険はMSWが活用することの多い制度ですが、患者がこれからどのような生活を望んでいて、それを達成するためにサービスをどう利用するかを考えることが大切だと学びました。

後半は、チーム医療におけるMSWの役割についてグループワークを通して体験的に学びました。

私は初任研を受ける機会を持たないまま、MSWとしての活動が3年目となってしまいました。1年目の時に知っていたらもっと違ったアプローチになったはず～！と後悔の波が押し寄せる内容ばかりでした。ここではご紹介できませんが、実践に活かせる耳寄りな情報もお土産としていただきました！

講師を務めて下さった先輩方ありがとうございました。一緒に研修を頑張った皆さん、また日々の業務でお会いできることを楽しみにしています！

「2019年度沖縄県医療ソーシャルワーカー協会初任者研修 第4回目」に参加して
令和元年8月4日

南部徳洲会病院 医療福祉相談室 島袋 あや子

令和元年8月4日、大浜第一病院で開催された第4回初任者研修について報告します。今回の研修では「ソーシャルワークアセスメント」と「記録」、「退院援助」の内容について学びました。

「ソーシャルワークアセスメント」の内容では、クライアントのありのままを受容しエンパワメントしていくことが、クライアントの自己実現を支援することに繋がるということがわかりました。対人援助では、クライアントのストレス視点に目を向け、それを引き出していくことが大切だと改めて感じました。また、クライアントの抱える問

題とニーズを充足するために必要なアセスメント項目について理解することができました。

「記録」の内容では、記録の書き方や記録をすることが、MSWがどのような支援を提供したかという事実を残すために大切であると学びました。記録を書く際は、自分が理解するだけでなく、クライアントや多職種にもわかるような表現を意識して書く必要があるため、読み手に勘違いされないよう気をつけるようにしなければいけないと感じました。そのため、記録は読み手にもわかりやすく、得た情報を要約し、一度確認してからカルテに残すよう意識していきたいと思います。また、初回面接で扱う情報量が一番多いことを学んだので、フェイスシートを面接の際に活かしていきたいです。

「退院援助」の内容では、グループワークを通して、急性期病院と回復期病院でのMSWの役割等について学ぶことができました。グループワークでは、患者さんの現在の状況をアセスメントし、そこから支援方法を考えて療養先を検討していくというものでした。このグループワークでは急性期と回復期の両方のMSWの立場に立って、患者さんをアセスメントできたので、それぞれの病院のMSWの視点の違いや共通点を知ることができる良い機会になったと思います。

今回含め、今までの初任者研修を通して学んだことを日々の業務に活かし、頑張っていきたいです。

在宅医療・介護連携報告

令和元年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業 「入退院調整に係る基本指針策定に向けた圏域別調整会議(北部圏域)」 第1回 北部圏域合同調整会議

令和元年7月18日
勝山病院 地域連携室 山城つきえ

令和元年7月18日(木)、沖縄県高齢者福祉介護企画班、沖縄県MSW協会の主催による沖縄県入退院支援連携デザイン事業第1回北部圏域調整会議があり、北部9市町村、2急性期病院連携室看護師、MSW 地域包括支援センター、介護支援専門員 訪問看護 在宅介護支援センター 介護施設 やんばる在宅医療連携推進関係者等30名の参加がありました。県における入退院調整に係る基本指針策定の流れや基本的なルール案、今後のスケジュールの説明が主催者側からあり、事例紹介、各圏域の入退院の連携手引き、マナーブック紹介、意見交換が行なわれました。

北部圏域ではやんばるエチケット集、在宅医療介護連携マニュアル(案)をケアマネ、MSW で作成、病院や診療所、居宅支援事業所へ配布されましたが、ルール化はされておらず連携が不十分なケースもあり、ケアマネや施設、病院から連携コーディネーターへの相談も数件あります。また、ケアマネからの入院時情報提供書の病院内での情報共有や、転院時に後方病院との連携が不十分ではとの意見がありました。その他、生活保護世帯等の外来受診時や救急受診時に、ケアマネや施設の職員が対応するケースが多く、状態等の情報共有や電子媒体の利用や、外来受診時から生活の意向などの確認をしていくことなど、今後多職種でスムーズに連携が行なわれる対策の検討が必要だと意見がありました。

調整会議後の作業部会では、入退院連携に関する基本的マナーについて、院内掲示した際の統一した対応を求める意見がありましたが、基本指針(案)に反対の意見はなく、各病院、事業所で閲覧し共有を図っていくことになりました。入退院の連携ツールのルール化についての素案も9月の部会で提案していく事で一致し、北部圏域のスムーズな連携を目指した会議になりました。

令和元年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業
「入退院調整に係る基本指針策定に向けた圏域別調整会議(南部圏域)」
第1回 南部圏域合同調整会議

令和元年 8月 1日

那覇市在宅医療・介護連携支援センター ちゅいしーじー那覇 高江洲 あやこ

去った2019(令和元)年8月1日(木)、沖縄県総合福祉センターにて沖縄県入退院支援連携デザイン事業第1回南部圏域合同調整会議が開催されましたのでご報告いたします。参加者は、46人でした。

まず、沖縄県より「入退院調整に係る基本指針策定」の流れについて説明を頂きました。今回の基本指針は、「最低限守りたいルールの作成」を目指すものであること。流れは3ステップあり、地域包括ケアシステム推進会議>在宅医療介護連携部会>入退院支援連携プロジェクトチームがあります。さらに入退院支援連携指針作成研修会とワーキンググループがあり、この2つを通して意見の吸い上げとたたき台(骨子)を作成されました。そのたたき台(骨子)を圏域でブレイクダウンするために、本日の説明・意見交換が開催された旨が述べられました。話し合いの内容は、プロジェクトチームを通して、最終的に地域包括ケアシステム推進会議での決定事項として指針が策定されることでした。

また、入退院調整に係る基本指針の構成は、対象別のルール(心得)、事例のフローの2部構成となっており、ルール(心得)に関しては、対象者を本人・家族、病院側、在宅・施設側とし、事例に関しては、理想的なフローを示していること。さらに、注意点としては、各圏域で既に先行しているルールもあるが、県が作成しているルール(心得)は基本的な部分であり、それを妨げるものではないことの説明がありました。

意見交換では、活発な意見が交わされました。ルール(心得)に関しては、本人・家族にわかりやすい表現が良いのではないかと、急変時に家族が持参したほうが良いものも記載するのはどうかなどが挙がりました。また、治療方針に関する話し合いの参加については、それぞれの専門職の役割やできる範囲についても様々な意見が挙がりました。事例に関しては、ルール(心得)と連動させてはどうか等の意見が挙がりました。

沖縄県は多くの離島があり、医療資源の少ない住民の受療行動は医療圏を大きく跨ぐ場合が多々あります。また都市部であっても医療・介護資源は偏在化しており、入退院支援の標準化・均てん化はどの地域においても課題とされています。沖縄県の「入退院調整に係る基本指針」により、どこに住んでいても、必要とされる入退院情報の質が担保され患者・利用者の利益になること、多職種の相互理解が深まり連携がスムーズにいくことを期待します。

自主勉強報告会

めだかの学校
ハートライフ病院 MSW 佐平 彩乃

8/16(金)にめだかの学校で事例検討会がありました。スーパーバイザーに大浜第二病院の安慶名さんへお願いし、私が提出したケースを検討していただきました。簡単ではありますが、事例の概要です。

意欲がない、と言われていた患者さんと時間を設けて話をしたところ、希望を打ち明けてくれたのですが、結

果としてその意向を叶えることができず退院してしまいました。MSWとしてこれ以上に対応できたのではないか、また、叶えたいという気持ち自体が私の個人的な感情なのではないか、という事を提出理由としました。

自分のケースを事例の題材として検討していただいた率直の感想は、自分の見えていなかった捉え方を助言していただき、発見と反省があったと同時に、支援を言語化することはとてもパワーを使うものだと感じました。反省点の具体的な内容として、実施した支援が中途半端に終わっていたことや、本人の発言をそのまま受け動いてしまい、主訴が見えていなかったこと、本人や環境が持っているストレスに目を向けられていなかったことです。自分の発言や言動等、支援の根拠となる部分を明確にすることで反省点に多く気づかされ、支援方法を見直さなければいけないと感じ、自分の未熟さを痛感しました。

しかし、気づきは課題点だけではなく事例検討のまとめの中で支援の評価をしていただき、MSWの支援で大切なことは結果だけではなくプロセスであり、どれだけ本人に寄り添って考えられるかどうか、という言葉にこのケースで悩んでいた気持ちが軽くなりました。心残りがあったケースでしたが、改めて振り返りを行ない、第三者の方からアドバイスをいただくことで、自分では行動できなかった支援の方法を学び、次回からのケースに活かしていきたいと感じました。

初めての事例検討は、色々な感情と学びがありとても貴重な時間となりました。この機会を自己の糧としていくため、事例の振り返りや事例検討の場を大事にしたいと思いました。また、支援に立ち止まった時にはMSWの倫理綱領を見つめ直したいと思います。

スーパーバイザーをお受けしていただいた安慶名さん、参加してくださった方々、お忙しい中本当にありがとうございました。

*8月は「めだかのホームルーム」「めだかの放課後」自主勉強会開催は有りませんでした。

トピックス

*2019年度、毎月第3月曜日の沖縄タイムス「くらし相談(医療)」欄に、県MSW協会員より文章が掲載されます。皆さんご覧になって下さい

「人生の最終段階 本人や家族の決断を支援」

県医療ソーシャルワーカー協会 當銘 由香
(2019年 7月15日 掲載済)

90代の1人暮らしの方で何度か入退院を繰り返していたAさん。数年前から車イス生活となり1人暮らしができず施設で生活をしていた。今回の入院で、医師から最期が近いと説明があり、Aさんは「自宅に帰りたい」と訴えた。ご家族は自身の生活もあるため決断を迷われ、時には涙を流しながら日々気持ちが揺れていた。ソー

ソーシャルワーカーはそんな家族の想(おも)いに寄り添い、具体的なサービス利用内容を提示しながら家族の決断をサポート。その結果、介護サービスや医療サービスを利用しながら本人の望む最期の生活を自宅で過ごすことを決意。残された日時が無い中急いで体制を整え1週間後、自宅へ退院となった。退院翌日、体調不良にて来院。入院するかどうか本人の意向を確認すると「自宅に帰りたい」「自宅で過ごしたい」と強い希望がありそのまま自宅で過ごすこととなった。翌日、大好きな家で大好きな家族に囲まれ息を引き取ったと後日家族とサービス事業所から連絡を受けた。

人生の最終段階をどこでどう過ごしたいかについて話をする事はなかなかないのが現状です。国は人生の最終段階における意思決定支援としてACP(アドバンスケアプランニング)を推奨しているがまだまだ浸透していない。医療の現場では日々、家族が患者様の最期をどうしたいかを決定しなければならない場面に遭遇する。私たちソーシャルワーカーは急な決断を迫られ揺れる本人、家族の想いに寄り添い、最期だからこそ本人らしく過ごしたいという想いを少しでも共有し、決断をする支援をしている。時には一人で結論を出すことが難しい場面もあると思います。そんな時はぜひソーシャルワーカーに相談してほしい。

「困難に立ち向かう力引き出す」

県医療ソーシャルワーカー協会 安慶名 真樹
(2019年 8月 19日 掲載済)

私が医療ソーシャルワーカーとして働き始めたばかりの頃の話です。ソーシャルワーカーが大切にしている倫理綱領(行動指針)の中に「受容」があります。個人的な先入観や偏見を排し、利用者があるがままに受け入れることです。言葉では理解できても、私個人の価値観と異なる価値観を持った方を目の前にしたとき、どのようにその方を理解し、受け入れたらよいか悩んでいました。

ある日、新聞でこんな文章を見つけました。書いた方は、40代で突然あの世と交信する能力が付き、ユタのような役割を命ぜられたとのこと。特に信仰があったわけでもないのに急に身に付いた不思議な能力に、大変戸惑ったとのこと。その方が神様に尋ねます。「世の中にはいろいろな信仰・宗教があり、いろいろな神様がいますがどれが本当の神なのか?」。神様は答えます。「私を横から見たら何が見える?」「耳です」「後ろから見たら?」「頭です」「そうだ。見えかたは違うが、見ているものは同じ神だ」。その文章を読んだ時、なるほど、受容につながることもかもしれない、と妙に納得したのを覚えています。

患者・家族は病気や障がいを負ったことで生じるいろいろな生活課題に取り組もうとします。課題の捉え方もその取り組み方もさまざまです。新人の私は個人の価値観が邪魔をして「そんな考え方でうまくいくの?」と無意識に相手の価値観を否定していたように思います。見え方が異なるのは当然、そのうえでその方の世界観、その方そのものを理解しようとした時「この方はだからこんなに苦しいんだ」と捉えるようになりました。人は寄り添ってもらえたと感じるとき、困難に立ち向かう本来の力を発揮できるようになります。その力を引き出せるよう、患者・家族の価値観に寄り添える存在でありたいと思います。

新入会員紹介

南部医療センター・こども医療センター 真喜屋 陽香

はじめまして。去年の4月に沖縄県立南部医療センター・こども医療センターに入職し、今年の6月より地域医療連携室に移動になりました真喜屋陽香と申します。MSWとして働き始めて約3カ月が経ちますが、毎日があっという間に過ぎていきました。初めてのことばかりで戸惑うなか、同期の仲間達や先輩方、入退院支援看護師や病棟スタッフ、沢山の方々から助けて頂きながらなんとか退院支援を行っております。毎日が勉強の日々で学ぶことや反省点が多々あるなか、患者様やご家族様からの感謝の言葉を貰えたときは、とてもやりがいを感じる事が出来ました。今後もMSWとしてより良い支援が行えるよう自己研磨に努めていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

南部医療センター・こども医療センター 金城 恵梨子

6月より県立南部医療センター地域連携室に所属になりました金城絵里子と申します。病院で働くことが幼い頃からの夢でした。上手くいかないことも多々ありますが、南部医療センターでMSWとして勤務できることがうれしく思います。右左分らず、まだまだ不慣れな部分が多く日々考えさせられながら時間があっという間に過ぎ去って行きます。私自身に務まるのか不安なこともあります。先輩方のように強くたくましい立派なMSWになれるようこれからも日々奮闘していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

部会からのお知らせ

9月研修部だより

めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	カンファレンスについて(各病院でのカンファレンスの進行方法、使用しているシートなどを持ち寄って確認し合う)
日時	2019年 9月 11日(水) 19:00
会場	宜野湾記念病院
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 謝敷

めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

テーマ	小児事例検討会
日時	9月15日(日)
会場	公立久米島病院
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

めだかの放課後(経験年数5年以上)

テーマ	※開催日時・内容を調整中
日時	
会場	
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第一病院 医療福祉課 當銘

OGSV

テーマ	10/13第4回コンチネンス初級セミナー予演:樋口 9/28・29 全日本病院学会予演
日時	9月11日(水) 19:00~20:00
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	沖縄国際大学 樋口

8月理事運営会議録

2019年8月22日(木)19:00~21:30

場所: 県総合福祉センター

【参加者】樋口会長、新垣副会長(司会)、秦、大久保、石郷岡、長、安慶名、伊禮、小橋川(書記)

【欠席者】又吉副会長、當銘事務局長、奥平、仲地、山城、香村、高江洲

1. 各部報告

[研修部]長理事

1) 初任者研修

参加者数 1回目 25名 2回目 19名 3回目 19名 4回目 18名

すべて出席した方 8名には修了証を発行予定

2) 中堅者研修

2020年2月8日(土)研修場所は那覇市内で調整予定

3) めだかの学校

9月:低所得者やキーパーソン不在の対応について

10月:カンファレンスの進行について

4) めだかのホームルーム

9月15日(日)小児事例検討会 会場:公立久米島病院

5) OGSV 9月11日(水) 19:00~ 那覇市立病院

10月13日 第4回コンチネンス初級セミナー予演

9月28日、29日 全日本病院学会演習

6) 沖縄県慢性期医療協会 ソーシャルワーカー部会 9月5日(木)14:00~17:00

場所:嶺井リハビリ病院

症例検討会 講師:樋口 美智子 氏(沖縄国際大学 人間福祉化 准教授)

事例提供者:大浜第二病院 謝敷

[広報部]安慶名理事

担当:中部徳洲会病院 與儀

タイムスに毎回掲載をしている

研修報告が集まりにくい、研修参加者の情報提供を依頼したい

[社会活動部]秦理事

県民健康フェア 8月25日(日)開催 担当者:秦、嘉手納、當銘

職業体験型コーナー 疾患別で各職能を回って知識を深める

景品は、健康なお菓子を予定

3. 事務局

特になし

令和元年度 沖縄県ソーシャルワーカー協議会 8月定例代表者会議

期日:令和元年8月7日(木)18:30~20:15

<協議事項>

1、ハンセン病回復者相談窓口開設及び体制について

2、ソーシャルワーカー協議会交流会について

2020年(令和2年)2月22日 昼食時に交流の場を設定する予定

3、沖縄県ソーシャルワーク学会・社会福祉士公開セミナーについて

テーマ:引きこもりについて

4、次回協議会 2019(令和元年)9月4日(水)18:30

入退院支援連携デザイン事業

沖縄県入退院支援連携デザイン事 <専門研修>

「地域包括ケアシステムにおける老人保健施設の役割」

日程:2020(令和2年)2月19日(水)14:00~17:00

講師:高知県医療ソーシャルワーカー協会 会長 中本雅彦様

介護老人保健施設リゾートやわらぎ

中部圏域 8月27日(火)19:00~ 中部地区医師会

宮古・八重山圏域 宮古 :9月18日(水)14:00~ 宮古島市役所

八重山:9月26日(木)14:00~ 石垣市役所

第19回 沖縄県慢性期医療協会研究発表会のおしらせ

日時:2019年9月28日(土)9:30~16:30

場所:宜野湾市民会館 大ホール

特別講演:「人生会議(ACP)について(仮)」医療法人社団裕和会 松尾クリニック 院長 松尾和宏 先生

演題発表(第1セッション~第4セッション) ポスター発表(第1セッション~第2セッション)

*慢性期のみならず、広く医療関係者の皆様の参加をお待ちしています。

次回理事会 9月17日(火)19:00~ 司会:當銘、書記:大久保、連絡:小橋川

.....

★編集後記★

最近よくYouTubeを見ているのですが、本当にいろいろな人がいて、いろいろな生き方があるんだと感じさせられます。10年前には考えられなかった事が当たり前になっていて、さらに10年後はどうなっているのか。AIはより身近なものになっているはずですから、生活だけでなく、ソーシャルワーカーとしての仕事も変わっているかも??そう考えると少し怖い反面、ワクワクもします。そんな思いにふけている今日この頃です。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>